# 第二節　昭和のおもな出来事

## 一　昭和初期～十五年

### （一）創立五十周年記念事業（昭和四年十一月）

学内に保管されている『昭和四年十一月　創立五十週年記念事業書類　東京音樂學校』と題する綴りより、行事の概要を示す資料を掲載する。演奏会については本百年史『演奏会篇第二巻』に掲載済。

昭和四年十月十二日

東京音樂學校長乗杉嘉壽

學務部長殿

拜啓益々御清榮奉賀候陳者當校ハ其創立以來本年ヲ以テ滿五十年ニ相達シ候ニ付テハ右祝賀會ヲ開催可致候處時勢ニ鑑ミ此ノ機會ニ於テ本校卒業生ヲ以テ組織スル同聲會ト協同シ左記ノ日程ニ依リ音樂教育研究大會ヲ開催シ主トシテ中等諸學校ニ於ケル音樂教育ノ刷新改善ニ資シ度企畫致候ニ付テハ右趣旨御贊同被下貴管下諸學校音樂科擔任教員ノ出席方ニ關シ特ニ便宜ヲ與ヘラルヽ樣御願致度此段及御依頼候也

追テ右研究大會ニ於ケル行事等詳細確定ノ上ハ直ニ御通知可申上候間御含置被下度候

記

十一月二十八日　創立五十周年記念式
　　記念音樂演奏會（邦樂之部、洋樂之部）
十一月二十九日　音樂教育研究大會第一日
十一月三十日　音樂教育研究大會第二日
　　記念音樂演奏會（夜間、於日比谷公會堂）
十二月二日　音樂教育研究大會第三日（參觀見學）（手書き）

東京音樂學校創立五十周年記念式竝祝賀會等順序

十一月二十八日

記念式

一、午前九時入場
二、君が代奉唱
三、學校長式辭
四、文部大臣祝辭
五、記念祝歌合唱
六、勤續者表彰
七、閉會ノ辭

邦樂演奏（記念式終了後直ニ開演）

一、能樂
　　囃子
　　小舞
二、箏曲
三、長唄

祝　賀　會（正午開會）
洋樂演奏（午後二時開演）
獨唱合唱及管絃樂
十一月二十九日
音樂教育研究大會第一日（議事、研究發表）
十一月三十日
音樂教育研究大會第二日（議事、研究發表、講演）
記念音樂演奏會（於日比谷公會堂午後七時開演）
十二月一日
學友會祝賀會
十二月二日
音樂教育研究大會第三日（參觀、見學）

---

記念展覽會

十一月二十八日ヨリ三十日マテ三日間開會シ記念圖書樂器等ヲ陳列シテ御縱覽ニ供ス

昭和四年十一月二十八日

五十週年祭

食事その他

高折宮次㊞
新國寅彦㊞

五十周年記念式來賓受附（廿八日）

一、玄關右側ノテント内ニ四箇ノ受附ヲ設ケ各受附ニ立札ヲ立ツ。
一、役員生徒八十名ニシテ各受附ニ二名宛ヲ充テ殘リヲ連絡係ニアテ各自午前七時ニ登校シ部署ニ就ク。
ナホ各自ノ任務ヲ記シ四箇ノ受附ニ配シ以テ誤ナキヲ期ス。
一、出席セシ來賓ニ招待狀ト引換ニ徽章、記念帖、會場ノ座席券及ビ食卓券ヲ配布シ來賓接待係ニ案内ヲ囑ス。

眞篠俊雄㊞

五拾周年記念式受附（拾壹月廿八日）

一、校門入リ右側テント中ニ五箇ノ受附ヲ設置シソノ各ニ、立札ヲ立ツ。
一、生徒役員拾貳名中各受附ニ二名ヲ定メ殘リ二名ヲ援助トス。各受附ヨリノ案内ヲ各卒業生控室ヨリ女生徒二名宛ニ依頼ス。各自午前七時ニ部署ニツク。
一、出席者ニ案内狀交換ニ名入リ徽章、記念品、並ビニ食卓券ヲ配布シ案内狀ヲ持參セザル出席者ノ姓名ハ各受附ニ於テ書キ留ム。

福井直俊㊞

料理種別　　二葉亭

皇族お食事及びお紅茶
スープ、魚、鳥、冷菓子、果物、コーヒー、パン（六圓）
サイダー、シトロンは當校にて用意す

來賓　本校卒業生　校長職員　オーケストラ部員　放送局員及び逓信省員　邦・生演奏及び關係者　新聞記者　海軍々樂隊　醫師看護婦　寶亭

ロースポーク　パン（バター入二ヶ）
シンケン　果物（林檎一ヶ　蜜柑一ヶ）
ハム　洋菓子（カステーラにかざりあるもの一ケ）
魚マヨネーズ（鱒）　紅茶
フーカデン　サイダー（二人につき一本）
野菜サラダ
二重皿盛　一人前一圓四十錢

本校、臨教及び分教場生徒　小使及び當日の使用人　警官
皇族お供（自動車）　寄宿舎女中　寶亭

赤飯　紅茶
フーカデン
ソーセーヂ
魚フライ（鱒）
チャーシュー二ヶ
野菜サラダ
奈良漬二ヶ
果物（林檎一ヶ　蜜柑一ヶ）
二重折詰　一人前一圓

配給の時間

皇族　午后十二時三十分準備整ふ　二葉亭
大テント食堂　〃　十二時　〃　寶亭
菓子及び煙草　午前八時　〃
しるこ　〃　十一時半　岡埜廣小路

配給所

皇族　お食事及紅茶　準備室
しるこ　大テント側女生徒控室とオルガン室の間
湯　本館及び舊新館の間　小使室　及び寄宿舎

菓子　その他

皇族お土産箱入お菓子
一般箱入お菓子
（駅前岡の）
皇族、隨員、特別來賓　○カステーラ（上野風月）　最中（岡埜）
來賓、卒業生（三百人分）○志るこ（広小路岡の）
皇族、隨員、特別來賓　○國華
來賓、卒業生、新聞記者　皇族隨員及びお供　警官　○敷島

皇族及び甲、乙食事過不足の理由

皇族　お十二方豫定なれどお一方出でなき爲め一つ殘る
甲、乙辨當　新聞記者數を實際より多く用意なしたり
豫備として各三十ヶづゝ用意す
殘りは寄宿舎その他へ程よく配す
出席通知有りし者にて不參者相當あり

〔手書き〕

創立五十周年記念式演奏會祝賀會（十一月二十八日）

來賓接待掛報告書

來賓接待掛覺書

○午前八時參集八時三十分部署ニ就ク。

○各室掛生徒一、二名ヅヽニテ受附ヨリ控室ヘ更ニ式場ヘ案内ノ事。

○來賓ノ控室割ハ受附掛ニテ區別ス。

○控室ハ式場ヘ出入便宜ノ爲座席番號各列1ヨリ18迄ハ三、四室19ヨリ36迄ハ一、二室。

○特別室ハ文部大臣及其關係者、第一室ハ幾分特遇スベキ來賓等、特別室以外ノ四室ニハ各六、七十名ヅヽ割當テノ事。

○携帶品ニハ備ヘ付ケノ紙札（半紙細長紙片、墨壺筆硯用意）ヘ來賓各自氏名記入シテ取付ケラレ尙掛員ニテ整理ヲ助クル事。

○來着者ヨリ順次ニ或ハ少シヅヽ待合セテ式場入口迄案内ノ事、尙時間早キ來着者待合セ中ハ適宜茶煙草ヲ進ムル事。

○九時十五分迄ニ掛職員生徒ハ奏樂堂裏ヨリ式場ヘ入場ノ事、其間ノ部署ハ參列セザル事務ノ人ニ依賴シ、（但始無人ニ付巡視或ハ警備ノ警官等ニモ注意ヲ依賴ス）來賓遲參者ハ待合サル、事。

○九時三十分式開始二十五分位ニテ終了、掛員ハ直ニ控室ヘ歸リ遲參者案内ノ事。

○十時三十分邦樂演奏開始。

○十二時第一部終了直ニ祝賀會場ヘ女生徒控室ト新館トノ間ノ臨時出入口ヨリ案内ノ事。

○會場入口ニモ掛員待チ受ケ食卓ノ指示ヲナス事。

○式場ヨリ案内ノ時掛員ハ始メニ來賓次ニ卒業生ヲ左右出入口ヨリ案内スル旨注意スベキ事。

○此時手洗等ニテ遲レル人ノ爲通路要所ニ會場ヘノ標示及案内員ヲ配置促進誘導スル事。

○會場座席ハ食卓券指定ノ食卓（一卓四十名）ニ自由ニ着席ノ事、他ノ食卓トノ入替リヲ謝絶。

○接待掛員モ同時ニ食卓ニ着キ臨機ニ接待スル事。（但强要ナシ）

○供餐後展覽會隨意縱覽。

○一時四十五分迄ニ隨時式場ヘ來賓入場ノ事。

○二時　第二部開始

○四時三十分頃第二部終了皇族御退場後迄控室ヘ前ノ通リニ案内携帶品ノ處理ヲ助ケル事。

○忘レ物注意。

○皇族御歸還ノ際來賓ハ御通過點待合サル、事。

來賓室ヘ掲出ノ注意事項

一　混雜ノ際ニ付貴重品ハ御携帶下サレタシ

一　帽子外套等ハ各室備付ノ紙片ニ御記名ノ上休憩室又ハ携帶品置場ニ置カレタシ

一　祝賀會場ニ於テハ食卓券指定ノ食卓ニ着メレタシ
一　演奏中ハ出入遠慮アリタシ
一　皇族殿下御入退ノ際ハ起立セラレタシ
一　展覽會ノ御縱覽ハ午前邦樂演奏前又ハ
　供餐終了後ニ御願ヒシタシ
一　邦樂終了後直ニ掛員誘導ニヨリ祝賀會場ニ入場セラレタシ
一　午后洋樂演奏終了後、皇族殿下御見送リノ上御歸リアリタシ
一　第二部開始前二時十五分前迄ニ御入場願ヒタシ

　別紙ニ本日御來臨ノ皇族殿下ノ御名掲出。
大體右ノ通リ進行終了セリ

以　上

創立五十年記念式當日の皇族掛報告

一、當日午前十時左の宮殿下御台臨遊ばさる。
　秩父宮妃殿下、東伏見宮大妃殿下、伏見宮妃殿下、閑院若宮妃殿下、賀陽宮妃殿下、東久邇宮妃殿下、朝香宮兩殿下、同姫宮殿下、李王子兩殿下、（久邇宮妃殿下は御差支の爲め當日電話にて御斷り）
二、校長室に御休憩の後十時二十五分校長は奏樂堂へ御案内す。
　（朝香宮殿下は御都合にて十一時過ぎ御着校）
三、十時半演奏開始正午終つて校長室にて少し御休憩の後（此の間新聞社の寫眞班約十人にて宮内官の御許を得て殿下方を撮影す）展覽會場へ御案内申し上げ高野教授御説明す十二時四十五分食堂（女教員室）へ御案内　二葉亭の御昼食（洋食）を差し上ぐ。
四、午后一時半頃秩父宮妃殿下は御都合にて先へ御歸還遊ばされ一時四十分校長は食堂より直ちに奏樂堂の西側入口より御案内御着席の御順序逆になりたれど、妃殿下御三方は遲（ママ）くれて東側入口より御案内申せし爲め事無きを得たり。
五、一時四十五分午后の演奏開始、三時頃休憩となりたる爲め校長室へ御案内して二葉亭より紅茶を差し上ぐ。
六、御休憩の後再び奏樂堂へ御案内、四時半頃演奏終つて校長室にて少し御休憩の後宮家の御順序にて御歸還遊ばさる。
七、當日皇族御接待役を命ぜられし者左の如し。
　（主任）萩原教授、小倉教授、橘講師、
　臨教二年生徒。　木村、金谷、伊藤、牟田口
八、三十日夜の音樂會（日比谷公會堂に於て）には御台臨なき爲め何等報告する事なし。
　右報告す
　昭和四年十二月二十八日　　教授　萩原英一㊞
東京音樂學校　庶務御中　　（手書き）

本校創立五十周年記念演奏會

洋樂部演奏掛　教授　澤崎定之記

昭和四年　恰も本校創立五十周年に相當す。
かねて十一月二十八日を卜し之を記念すべき式典擧行と共に祝賀會及邦樂洋樂の演奏會開催の件決定せられたり。

### 演奏曲目の決定とその練習

同年六月下旬その演奏曲目として「ヘンデル」作　神事劇ユーダス・マッカベーウスを選定し第二學期よりその練習を始む。合唱練習は九月及十月前半に於ては規定の授業時間（卽ち各級個別の練習はラウトルップ教師、受持時間に於て全體生徒の練習は毎週火曜、木曜兩日各一時間の合唱時間に於て）を以て部分的に之をなし管絃樂また規定の時間（毎水曜日午後一時より三時まで）に於て練習。獨唱の練習は指揮者と獨唱者との間に於て之を定めてなせり。

十月下旬よりは獨唱或は合唱と管絃樂と同時の練習を要するに至り、何れも毎週その練習回數を增加せり。由來オラトリウムはその全曲を通じての演奏にはかなりの時間を要す。從つてその練習にも比較的長期間を必要とす。當然の結果として之が練習の爲午後四時を過ぐる事數度なりき。

### 君が代及記念祝歌の練習

君が代が國歌として制定せられて茲に五十年。

本校創立五十周年記念式に於ける君が代奉唱また誠に意義深きものなり。之が練習は、かねて本校に於て作成せられたる記念祝歌（歌　教授　高野辰之作　曲　同　船橋榮吉案）と共に本年度學友會合唱指揮者たる澤崎定之、之に當り學友會規定の時間に於て十月下旬より始む。之が演奏の効果につきては島崎、船橋兩教授より

### 記念式當日の演奏

參列者は前記の如く來賓及卒業生合せて八百五十餘名なり。學校長の御先導にて台臨の宮殿下御十一方の御着席を待ち奉り開幕。光榮ある演奏はラウトルップ教師指揮の下に「ユーダス・マッカベーウス」第一幕序曲を以って開始時に午後一時四十五分なり。演奏は順を追ひ同二時四十五分第一幕を終へ各宮殿下の御退席後、幕を閉ぢて休憩。二十分の後各宮殿下御着席相成って開幕。

第二幕第十九、戰場に於ける「ユーダス・マッカベーウス（テノール）」の抒情調に次ぐ合唱より始まり第二十六「よしや此の身は倒るとも自由と祖國との爲に倒る、は美し」の合唱を以て第二幕終了。此時指揮者のみ退場。寸時にして第三幕に移り、進み來れる緊張せる演奏が遂に第四十三「終りの合唱」に於て「ハレルヤアーメン」と結ぶや感銘せる聽衆よりの拍手におくられて演奏を終る。四時三十分なりき。

### 演奏者

| | | | |
|---|---|---|---|
| 指揮者 | | 教師 | シャールス・ラウトルップ |
| 獨唱者 | ユーダス マッカベーウス | （テノール） | （講　師）　木下　保 |
| 〃 | 祭司長 | （バス） | 矢田部勁吉 |
| 〃 | 國民中の男女 | （ソプラーノ）（メゾソプラーノ） | （教　授）　長坂好子　田中宣子 |
| | | （テノール） | （本科聲樂部三年生）　薗田誠一 |
| 〃 | 使者 | （バス） | （本科聲樂部三年生）　伊藤武雄 |

管絃樂部員

一・ヴァイオリン　多　久寅（講　師）

〃　川上　淳（教　授）
〃　末吉雄二（講　師）
〃　鳥居つな（助教授）
〃　奥村　艶（〃　）
〃　草川　信（教務囑託）
〃　黒澤良輝（〃　）
〃　西川滿枝（〃　）
〃　井上武雄（研究科）
二・ヴァイオリン　栗原大治（教務囑託）
〃　桂　平太（〃　）
〃　水口幸麿（〃　）
〃　颯田琴次（〃　）
〃　伊藤純三（〃　）
〃　平戸龍也（研究科）
〃　鈴木保羅（事務囑託）
ビオラ　杉山長谷夫（教務囑託）
〃　橋本國彦（唱歌編纂掛）
〃　藤田經秋（教務囑託）
〃　福井　巖（教務囑託）
〃　岡田二郎（研究科）
〃　兎束龍夫（本　科）
セロ　信時　潔（教　授）
〃　岡野貞一（〃　）
〃　平井保三（助教授）
セロ　酒井　悌（教務囑託）
〃　淺野常七（〃　）
〃　沖　不可止（聽講科）
コントラバス　山崎藤得
〃　木下乙彌（教務囑託）
〃　海軍三等軍樂兵曹　深海善次
〃　〃　大友胞治
一・フリュート　〃　佐藤仁平
二・フリュート　福家軍平（教務囑託）
一・オーボー　海軍二等軍樂兵曹　新宅　孝
〃　〃　一等軍樂兵　坂上松藏
二・オーボー　〃　二等軍樂兵曹　中津井　實
〃　黒田周藏
一・バズーン　片山潁太郎（助教授）
〃　海軍一等軍樂兵曹　綿引哲三郎
〃　〃　一等軍樂兵　木戸全一
一・コルノ　海軍二等軍樂兵曹　藤井勇熊
二・コルノ　谷口良作
一・トロンバー　海軍一等軍樂兵曹　中村　平
二・トロンバー　〃　一等軍樂兵　白磯　巖
三・トロンバー　小林安八（雇　員）
チンパニー　海軍一等軍樂兵曹　岩田重一

以上四十八名

故に十一月上旬よりの練習毎に演奏に所要の時間を計算すされど練習は一部分づゝにして而もその中途より反覆するの已むなき事情なれば之れが正確なる事を知るに容易ならず。漸く演奏會期數日前に至って大差なき數字を得たり。依って放送局當事者と打合せの結果、君が代奉唱及ユーダス・マッカベーウスの演奏の一部分、即ち第二幕第十九より第三幕第三十六までを放送するに決定せり。

之れより先、當掛員は指揮者と共に公會堂の檢分をなし凡ての準備に遺憾なきを期す。

さて演奏公開の事一度世に傳はるや數千の會員券忽ちにして賣切れんとする情勢なるに至る。限りある座席を思ひ却って之を憂へざるを得ず遂に演奏會前一週日に於て之が賣止めを會計課より申出でなり。

十一月三十日公開演奏會當日の情況

當日は正午、庶務、演奏掛員數名會場たる日比谷公會堂に至り午後四時三十分會場及ステーヂの準備殆ど調ふ。五時演奏者全部參集こゝに部分的練習を始む。

練習中、潮の如き大衆の整理に困じ果てたる受附掛より數度練習中止の交渉あり。やがて六時十分練習を終ると共に聽衆の入場開始、果せるかなさしも廣き會堂も瞬く間に一の空席を認めず。各入口は人を以て埋む。

文字通り立錐の餘地なきに至る。所定座席二千大百の外準備せる百五十の補助椅子などものゝ數ならず。入場者總數實に三千五百有餘。誠にありがたき大盛況なり。午後より降り出せる雨は開會前愈々強し。かくて出おくれたる人もありしならん。大雨却って幸をなしたるの觀あり。

演奏準備全くなり七時〇二分前開幕正七時より君が代は管絃樂伴奏を以って全生徒二百六十五名奉唱、同時に豫定の通りラヂオを通じて放送。次に無伴奏にて、記念祝歌の合唱を以て番外演奏終了。

續いて當夜の演奏曲目たるヘンデル作ユーダスマッカベーウスの演奏に移り八時十分第一幕を終つて閉幕。

休憩。八時三十五分演奏者は所定の位置につき正八時三十分より始めたる第二幕よりの演奏は之亦既定通り同時にラヂオを通じて（第二幕第十九より第三幕第三十六即ち凱旋軍の行進とその入都の大合唱までを）全國に放送す。演奏は引續き順序に從ひ進み無事十分なる効果を擧げて九時五十分全部を終了す。（了）

（手書き）（『昭和四年十一月創立五十週年記念事業書類』）

## （二）始業式校長訓示（昭和五年四月）

▽始業式　四月十一日午前十時より講堂に於て莊重に擧行された。先づ乘杉校長の紹介によりて新舊兩生徒一同の挨拶が交されてから校長の訓示に入る。

……「昭和四年度の卒業修了成績と昨年度のそれとを對比すると昨年は一九八名中十九名の落第者を出し殆んど一割の落伍者を出して學校當局を心痛さしたが、本年は豫科に於て一人の失敗者を出したのみ、又卒業者が學業成績に於て一段の進境を示した事は校長としても實に愉快である。この素張しい卒業生の努力の跡を見るにつ